



大晦日の鬼追い式にて、人心に見立てた広場を荒らす貪(むさぼり)の鬼



発行所
比叡山時報社
〒520-0116 大津市坂本本町4220
電話 077-578-0001
振替 00970-2-9732
宗教法人延暦寺事務所
定価 1部110円 年1200円

延暦寺広報

叡山講福聚教会
会報
年度会費(3000円)中
に会報(比叡山時報)
購読料を含む。

令和5年比叡山から
発信する言葉
真の心を開き発す

ホームページから



ご購入は延暦寺

伝統の継承、物事の本質をよく理解する

現在では恒例行事となった節分での豆撒きですが、今回その由来を尋ねてみることで、古来より受け継がれた信仰と伝統の重みを感じ取ることができました。節分を機縁に改めて行事の本質を理解し、大切なことを今後担っていく若い世代へと引き継いでいくことの必要性を痛感しました。

毎年2月3日の節分では、「鬼は外! 福は内!」と声を出しながら福豆を撒き、撒かれた豆を自分の年齢(数え年)の数だけ食べると体が丈夫になり、風邪をひかないという習わしがあります。また地域によっては玄関などに邪気除けの柀鱈などを飾る風習もあるようです。節分とは、雑節の一つで、各季節の始まりの日(立春・立夏・立秋・立冬)の前日のことをいいます。旧暦では、立春に最も近い新月を元日とし、月の満ち欠けを基準にした元日(旧正月)と立春は、ともに新年と捉えられていました。したがって、旧暦12月末日(大晦日)と立春前日の節分は、ともに年越しの日と認識されていたようです。

立春の節分における風習はいくつかありますが、最も一般的といえるのは「鬼払い」でしょう。これは中国の風習を由来とする平安時代の追儺、鬼遣と呼ばれた宮中行事が元になるとされています。追儺や鬼遣は当初、年越しの儀式でしたが、やがていくつかの節分の中でも、立春の前日に行われるようになります。これはこの時期は寒さが続き季節も移ろう時期で体調を崩しやすいことから、ちょっとした風邪が深刻な大病となりうるのを人々が病魔の仕業と捉え、病魔を「鬼」、あるいは「疫鬼」として恐れたことが起因となるようです。

鬼払いは室町時代には豆を撒くようになります。これは鬼の目である「魔目」を滅ぼす力を持つ「魔滅」に、同音の「豆」を当てたのが由来だそうです。まるで駄洒落のようですが、豆は「五穀」のひとつであり、農耕民族である日本人の生活に欠かせないものとして力が宿るとされており、これら五穀の中でも特に豆と米は神聖な存在として魔を払う力を持つと信じられ、鬼に豆をぶつけることにより、邪気を追い払い一年の無病息災を願うという意味合いから、「豆撒き」が定着したようです。

祖師先徳鑽仰大法会が総結願へ



翌平成29年2月14日、浄土真宗本願寺派本山本願寺(写真左上)、また、2月17日には、浄土宗総本山知恩院(左下)を延暦寺僧侶が訪問し、森川宏映天台座主陛下を大導師に両宗の僧侶合同による「恵心僧都一千年御遠忌報恩天台宗延暦寺法要」が厳修された。

平成28年6月 恵心僧都一千年御遠忌法要
一千年御遠忌御祥日を、御祥当恵心講をそれぞれ、6月10日に迎え、9日に阿 厳修した山真真派・融通念佛宗・法要奉修順により、御遠忌を報恩弥陀堂に連夜法要が、また5月から6月にかけて10日には、大講堂において、恵心僧都を祖師と仰ぐ

大法会総結願法要を3月16日(木)に厳修
コロナ禍のなか1年間の延長を経て円成へ
十一年間に及ぶ大法会を振り返る



平成24、9月 円成神仏祈願法要
森友嵐士氏 坂東寛二郎氏

9月29日には根本中堂において円成神仏祈願法要が執り行われた。法要では、比叡山神仏祈願の象徴として山王総本宮日吉大社の御神輿が奉安された。また、大法会記念事業の一環であるイメージソング「雨上がりに咲く虹のように」が、比叡山親善大使の森友嵐士氏により奉納され、日本舞踊家坂東寛二郎氏による奉納舞踊も行われた。



平成25年 慈覚大師一千年御遠忌法要
5月11日は、大講堂において引声念仏法要が、翌12日には、延暦寺伝来の仏舎利を正面に奉じての舎利讀数が営まれた。また14日の慈覚大師御影供法要以降は、16日、19日、21日と、順に胎藏界、金剛界、合行の各曼荼羅供が奉修され、慈覚大師を講える声明の旋律が堂内に響いた。

平成24年5月 総開闢奉告法要
5月1日には根本中堂に、陛下を大導師に総開闢奉告法要が四圍法要をもって厳修された(写真)。また法要の前には根本中堂前広場に建てられた大法会角塔の開眼法要が営まれた。



令和3年6月 伝教大師一千年御遠忌法要
大法会の集大成となる大遠忌法要は、コロナ禍のなか、御影供を始め、4日午前中、諸大徳並びに関係者が参列して伝教大師のご遺徳が徳か、6月3日の御祥当連夜法会、午後には御祥当常行三昧

平成29、11月 相応和尚一千年御遠忌法要

11月1日には、天台宗・延暦寺の両内局が和尚廟へ墓参、翌2日には和尚ゆかりの無動寺明王堂、3日根本中堂、4日には葛川息障明王院においてそれぞれ法要が厳修された。また10月2日には、御生誕の地長浜北野神社内に石像が建立され、比叡山無動寺谷内住職並びに関係者により開眼法要が営まれた。



根本中堂 御祥当法要



御祥当後法要 明王院 御祥当連夜法要 明王堂



無動寺谷相応和尚廟墓参 北野神社

迎うこと1年前の平成24年春、天台宗祖師先徳鑽仰大法会が開闢。天台宗と比叡山延暦寺は合同で事務局を設立し、平成25年、慈覚大師一千年御遠忌、平成28年、恵心僧都一千年御遠忌並びに伝教大師御生誕一千年、平成29年には相応和尚一千年御遠忌を厳修。そして令和3年にコロナ禍のため期間を延長し、2年をかけて伝教大師一千年御遠忌を報恩し各種の法要を勤めた。そこで今般の特集では、来たる3月16日に厳修される大法会総結願法要を前に、10年間の様々な活動をまとめて報告する。



慈覚大師御影供



引声念仏法要



合行曼荼羅供



引声念仏法要



合行曼荼羅供



御廟には侍真僧により日吉茶園の茶が献じられた。



御祥当常行三昧法要では、歌舞伎俳優市川猿之助氏による御聖句奉誦や伝教大師魅力交流委員会鳥井信吾委員長のビデオメッセージで法要を彩った。



記念事業となる国宝根本中堂大改修の本格的な工事着工に合わせ「根本中堂大改修工事安全祈願法要」が厳修され、4月24日には、天台宗伝承法流の玄清法流(写真右上)と常楽院法流による、「根本中堂大改修地鎮法要」が奉修された。



平成28年4月 根本中堂大改修工事安全祈願法要